東京都町田市：忠生公園自然観察センター（忠生がにやら自然館）

が　に　や　ら　通　信

2024.1.15　No.300

1996年6月に第1号が発行されたがにやら通信は、今月、無事に第300号の発行を迎えました。

topics-1　ツミ

冬になると、小鳥たちは外敵から身を守るために、違う種類が一緒になって行動することがあります。（これを混群といいます）その中で急に、小鳥たちが大騒ぎをはじめたら、上空を見上げてみましょう。きっと猛禽が近くにいます。
エナガは外敵をいち早く見つけ、警戒メッセージの鳴き方で仲間たちと騒ぎ立てます。

園内で猛禽と言えば、ほぼこのツミです。冬は特によく見かけます。

この鳥自体を見たことがなくとも、このように、園路に鳥の羽根が散らばっているのを見たことはありませんか？

これは、猛禽が獲物を襲って食べた形跡で食痕（しょっこん）と呼びます。
獲物は、狙いやすいキジバトであることがほとんどです。

１枚目写真の、田んぼで捕えている獲物もキジバトでした。

また、ツミは水浴びも好きな鳥で
これはホタル川で水浴びしている幼鳥です。

野鳥は、獲物を夢中で食べている時と
水浴びの時は、比較的 警戒心が薄くなり
近くまで寄ることができます。

この時もそっと、すこしずつ近づき
至近距離で撮影できたものです。

topics-2　１月７日（日）定例自然観察会を行いました

今回のテーマは「冬の野鳥観察」で、大人７名・子供１名の計８名の参加がありました。
はじめに室内で、双眼鏡の使い方を覚え、ゲームを通じて鳥の声の聴きとり方も学習してから屋外に出ました。すると、高い枝先にいるツグミを皮切りに、
エナガやメジロの混群にも遭遇したり、
キセキレイが田んぼ辺りで歩いて
餌を探したりするのも観察できました。

ツグミ

ほかに、越冬しているキタキチョウや
クヌギカメムシの卵塊も順番に
ひとりずつ観察しました。

＜観察できたそのほかの動植物＞
（野鳥）シジュウカラ　メジロ　エナガ　モズ　ツグミ　ハクセキレイ　キセキレイ
　　シメ　イカル　ハシブトガラス　ヒヨドリ　キジバトほか
（昆虫）キタキチョウ　クヌギカメムシの卵塊ほか

参加者の感想

・普段は何気なく鳥の声を聞いていましたが、こんなにも色々な鳥がいることがわかってとても楽しかったです。鳥によってすむ場所が違う、飛び方や鳴き方が違うことなど教えてくださいながら歩いたのでとてもよかったです。（Ｎ．Ｋ．さん）
・初めての自然観察でとても楽しく興味深く体験させてもらえました。
説明がわかりやすく、鳥の特徴なども説明していただけよかったです。
特にイカルを観た時は感激しました。　（Ａ．Ｍ．さん　７４才）

忠生公園フィールドワーク記録

調査期間１２月１２日～１月１２日

期間中に観察した動植物（園芸・外来種含む）

野鳥　（声のみの記録も含む）　メジロ　ヒヨドリ　ウグイス　ミソサザイ　キクイタダキ
キセキレイ　ハクセキレイ　シジュウカラ　ヤマガラ　エナガ　シメ　イカル　カワラヒワ　キジバト
コゲラ　アオゲラ　　シロハラ　ツグミ　アオジ　ジョウビタキ　ルリビタキ　モズ　ハシブトガラス
ハシボソガラス　オナガ　カワセミ　カルガモ　リュウキュウサンショウクイ
（以降外来種）ドバト　コジュケイ　ワカケホンセイインコ　ガビチョウ

アオジ

モズ

キクイタダキ

カワセミ

ヤマガラ

ツグミ

樹木
（花）マンゲツロウバイ　ソシンロウバイ
　　サザンカ
（実）ナンテン　マンリョウ　センリョウ
　　ヤブコウジほか

マンゲツロウバイ

昆虫　キタキチョウ　ムラサキシジミ　ムラサキツバメ　ウラギンシジミ　クロコノマチョウ
イチモジフユナミシャク　チャバネフユエダシャク　ウスバフユシャク　ナミテントウ　ウスキホシテントウ
ハラグロオオテントウ　チビタマムシの仲間　ツヤアオカメムシ　ウシカメムシ　シマアメンボ
ヒゲナガサシガメ幼虫　クロスジホソサジヨコバイ　オオアオイトトンボ　ホソミイトトンボ
ユスリカの仲間ほか

イチモジフユナミシャク♀

チビタマムシの仲間

クロスジホソサジヨコバイ

野草
（花）　ハキダメギク　ウシハコベ　オオイヌノフグリ
（実）　ヤブラン　ジャノヒゲほか多数

クモほか
キハダエビグモ　ウロコアシナガグモ
アメリカザリガニ　サワガニほか

キハダエビグモ

今後の行事予定

＜定例自然観察会 「冬の野鳥」＞
　　２月４日（日）　午前8：00～10：00（雨天中止）
　　定員10名の申込制となっております。

　　1/23（火）9時より、電話で忠生公園へお申し込みください。
　　＊状況により中止となる可能性があります。お問い合わせください。

忠生公園自然観察センター　電話：042-792-1326